防衛省東北防衛局広報紙

東北のかなめ

vol.51（2021.1）

砕氷船「しらせ」
９月２７日八戸港にて

甲板ではペンギンもお出迎え

南極の石

【CONTENTS】

✓　東北防衛局長講演～日本安全保障・危機管理学会宮城県支部～
✓　防衛白書説明
✓　トピックス
　・八戸市防災対策検討委員会意見交換会
　・運貨船起工式
　・防衛大臣及び東北防衛局長感謝状伝達
　・在日米軍従業員永年勤続者表彰
　・局長視察～三沢飛行場～
　・職員のための基地対策・防衛行政勉強会（企画部）
✓　ようこそわが街へ（第２１回）～青森県野辺地町～
✓　防衛関連企業シリーズ④：(株)むつ縫製
✓　インフォメーション

熊谷東北防衛局長が講演

日本安全保障・危機管理学会で「令和２年版防衛白書について」講演

熊谷昌司局長は、９月24日、宮城県仙台市内のホテルにおいて、一般社団法人日本安全保障・危機管理学会宮城県支部が主催する宮城県支部９月次勉強会において講師を務めました。

同学会は、安全保障及び危機管理に関する理論とその応用・実践についての研究を深めつつ有為な人材を育成し、大学、自治体及び企業等へ送り込むことに寄与することを目的として、毎月勉強会を開催しています。

主催者である油川洋支部長の挨拶に続き、熊谷局長が挨拶等を行った後、令和２年版防衛白書についての概要や直近１年間の我が国の防衛に係る主要な出来事等をわかりやすく講演しました。同勉強会には、宮城県支部会員等の出席者約30名が熱心に耳を傾けていました。

講演終了後、聴講者からは、「サイバーに携わる人員の養成はどのようにしているのか」等の質問がなされ、熊谷局長は質問にひとつひとつ丁寧に回答しました。

東北防衛局では、防衛省の政策や自衛隊の活動に関して広く国民の理解が得られるよう、同局職員や隊員を積極的に講師として派遣しており、今後とも地元のニーズに応えながら講師派遣を行っていきたいと考えています。

講演する熊谷局長

会場の様子

防衛白書説明

各県知事等への令和２年版防衛白書説明

熊谷昌司局長は、令和２年版防衛白書について、10月13日、佐野好昭宮城県副知事、23日、達増拓也岩手県知事、30日、三村申吾青森県知事に対し、地方協力本部長等と共に、新型コロナウイルス感染症との闘いや災害派遣における防衛省・自衛隊の活動、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域をめぐる動向、国際社会における課題、わが国防衛における３つの柱など、防衛政策の面から分かりやすく、丁寧に説明を行いました。

各知事等からは、働き方改革における防衛省・自衛隊における女性自衛官の活躍の推進の状況、ワークライフバランスの確保については、当県においても人材育成や職場改革に力を注いでいるところであり、自衛隊の取り組みは大いに励みとなる旨の発言もなされ、興味関心が示されました。

例年、防衛白書説明は、東北防衛局、各地方協力本部、各地域事務所で実施しており、本年にあっては、管内に所在する261の地方公共団体等に対して説明を実施しました。

佐野宮城県副知事（左）

達増岩手県知事（最左）

三村青森県知事（最右）

八戸市防災対策検討委員会意見交換会

自衛隊・八戸市防災対策検討委員会が主催する令和２年度第１回目の意見交換会が、９月25日、八戸市内の長根屋内スケート場内の会議室で行われました。同会は、坂本美洋(よしひろ)会長を始めとし、八戸市、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、自衛隊青森地方協力本部、海上保安庁、青森県警察が参加、東北防衛局からは熊谷昌司局長、武田和仁企画部長及び古川和久三沢防衛事務所長が出席しました。

主催者である坂本会長の挨拶に続き、小林眞八戸市長、陸上自衛隊原田智総東北方面総監の代理同総監部濱田剛防衛部長、海上自衛隊二川達也大湊地方総監、航空自衛隊深澤英一郎北部航空方面隊司令官の代理河野学同司令部総務部長、熊谷局長が、それぞれ挨拶をしました。

この後、八戸市市民防災部防災危機管理課副参事竹井秀帆氏が、八戸市の紹介、八戸市の過去の災害、令和２年度の訓練予定を、続いて、まちづくり文化スポーツ部次長兼長根屋内スケート場副館長河原木実氏が、長根屋内スケート場の概要をそれぞれ説明しました。

会場となった長根屋内スケート場は、世界水準の大会が開催可能な国内３例目の屋内400mスピードスケートリンクであると同時に、災害発生時の滞在拠点のほか、備蓄倉庫機能を兼ね備えた防災拠点としても活用されます。これを踏まえ、自衛隊の災害派遣についてや顔の見える関係を続けていきたい等活発な意見交換が行われ、八戸市の防災対策の強化に向けて情報共有と連携強化が図られました。

同会終了後には長根屋内スケート場において記念撮影及び災害支援物資の集積スペース等の見学が行われました。

会場の様子

挨拶する熊谷局長

運貨船起工式～船舶建造の安全を祈願～

火入れの儀

御神酒拝戴

９月16日、青森市内の株式会社北浜造船鉄工にて海上自衛隊の運貨船（50トン型）の起工式が行われました。

郡山防衛事務所からは小山所長以下、海自大湊造修補給所の兼務者を含む５名が参加しました。

本船は、令和３年春に進水式が予定されており、その後、海上公試を経た後、海上自衛隊に引き渡される予定です。

運貨船は、接岸できない大型艦船への補給品の輸送に使用されるほか、前方のランプドアを用いて小規模港湾や砂浜などに車両や物資を陸揚げすることが可能であり、災害時には海からの輸送で活躍することが期待されます。

令和２年度防衛大臣感謝状伝達（青森県東北町長）

11月12日、蛯名鉱治東北町長に対し、東北町役場において、熊谷昌司東北防衛局長から防衛大臣感謝状を伝達しました。

蛯名町長(左)、熊谷局長（右）

防衛大臣感謝状は、自衛隊に協力し又は自衛隊を援助して、その功労が著しいと認められる方に対し贈呈されます。蛯名町長は、永年にわたり、防衛施設の安定的な運用に寄与され、当省業務の円滑な遂行に多大なる貢献をされた功績により、令和２年度防衛大臣感謝状を受賞されました。

例年、自衛隊記念日の記念行事の一環として、防衛大臣感謝状の贈呈式が東京都内で実施されていますが、今年度については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、贈呈式は中止となったため、東北防衛局長から伝達したものです。

令和２年度東北防衛局長感謝状贈呈（青森県六ケ所村副村長ほか）

11月12日、六ヶ所村橋本晋副村長に対し、六ヶ所村役場において、令和２年度東北防衛局長感謝状を贈呈しました。

橋本副村長(左)、熊谷局長（右）

東北防衛局長感謝状は、当局の所掌事務の遂行について、協力又は援助しその功績が著しいと認められる方に対し贈呈しています。

このほか、東北防衛施設地方審議会の深澤百合子委員及び松岡勝実委員が、令和２年度東北防衛局長感謝状を受賞されました。

日頃の防衛施設の安定的運用へのご理解、ご協力に深く感謝いたします。

令和２年度在日米軍従業員永年勤続者表彰

防衛省では、永きにわたり在日米軍施設に勤務した駐留軍等労働者の功績をたたえるために永年勤続者の表彰を行っています。

令和２年度、東北防衛局管内では、三沢飛行場及び八戸貯油施設に勤務する勤続40年、30年、20年及び10年を迎えた永年勤続者合計143名が受賞しました。

例年であれば、表彰式を開催し表彰状及び記念品を授与していますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、表彰式は中止し個別に贈呈しました。

局長視察～三沢飛行場～

東北防衛局熊谷昌司局長は10月14日、施設整備の進捗状況を確認するため三沢基地を訪問しました。

三沢基地は、わが国の安全保障上重要な施設であり、東北防衛局は、施設整備事業において、これまで多くの予算を執行し建設事業を進めてきています。

現在三沢基地では、３件の重要施設整備が進行中であり、北部航空方面隊司令部庁舎建替え、Ｆ－35関連施設整備、グローバルホーク関連施設整備です。

当日、熊谷局長は、各工事の現場を視察し進捗状況の確認を行いました。また、同行した調達部長等に「工事の安全に努め、航空自衛隊の整備計画に影響を与えないようにしっかり工程管理を行うように」との指示がありました。

北部航空方面隊司令部庁舎建替え現場

Ｆ－35整備試験運転時の騒音防止消音装置「サイレンサー（機体用）」の改修現場

滞空型無人機「グローバルホーク」の格納庫新設現場

職員のための基地対策・防衛行政勉強会（企画部）

東北防衛局企画部は、10月22日及び29日に企画部全職員を対象に勉強会を開催しました。

これは、わが国の安全保障・防衛政策を進めるには、地元自治体等とコンセンサスを取りながら進めることが極めて重要との観点から、過去の事案を題材に基地対策上の教訓を学んでもらうこと、また、令和２年度版防衛白書を題材に自らの業務を防衛行政全体から俯瞰的に見て行って欲しいことから、初めての取り組みとして開催されました。

東北防衛局は、防衛行政を円滑に進めるには、地元の理解と協力が不可欠と考えており、最も影響を受ける住民の方々の不安や懸念を払拭し、また日頃からの地元自治体との関係を大切にして、今後も業務を進めて行きたいと思っています。

挨拶で開催趣旨を述べる企画部長

会場の様子

ようこそわが街へ（第２１回）～青森県野辺地町～

野辺地町は、青森県の下北半島の付け根に位置しています。北西部には陸奥湾を抱き、西には烏帽子岳を背負い、南には八甲田の山々を望むことができます。

春は桜やヒバ、ブナの新緑。夏はヤマセによる冷涼な気候で過ごしやすく穏やかな陸奥湾で海水浴。秋は烏帽子岳の紅葉。そして、冬はスキーなどウインタースポーツが盛んです。

その豊かな風土は、ホタテや野辺地葉つきこかぶ、トゲクリガニなどの深い味わいの特産物の数々をもたらしてくれます。

かつては、北前船の寄港地として栄えた湊町としての歴史があり、祇園まつりや郷土料理など当時の文化が今も大切に伝えられています。

野辺地町は、四季のうつろいを強く感じられる自然豊かで、歴史と文化に育まれた町です。

【のへじ祇園まつり】

北前船日本遺産構成文化財

北前船によって上方から伝わったとされる祭礼行事です。盛岡藩の祭りの形態も見られることから、海と陸の交流地点である野辺地ならではの山車まつりです。

のへじ祇園まつりは、８月中旬に４日間行われる野辺地町最大のお祭りで、初日は長さ11m・重さ400貫の大しめ縄を八幡宮に奉納する「しめあげ」をかわきりに、２日目と４日目には、山車の合同運行が行われ、３日目は、海で栄えた野辺地ならではの船の大パレード「海上渡御」が開催され、町は祭り一色となります。

【町の特産品】

野辺地町の特産品は、テレビ等でも紹介されている陸奥湾育ちのホタテやトゲクリガニです。ホタテは大粒で口当たりがまろやかでトロッとした食感を楽しめます。

トゲクリガニは花見ガニとも言われ、毛ガニに磯の風味をブレンドしたような濃厚な味わいです。そのほかにも「野辺地葉つきこかぶ」や「カワラケツメイ茶」など豊かな特産品がたくさんあります。

防衛関連企業シリーズ④：株式会社むつ縫製
～ 女性が活躍～

株式会社むつ縫製は、青森県東北町に所在し、昭和48年に創立されました。
同社では、各自衛隊の作業服やシャツの縫製を行っており、お客様への信頼と満足を得ることを目標に全社員が「品質第一」にこだわりぬき、生産に取り組んでいます。
同社の社員数は、約80名であり、木村恵子社長をはじめ約９割が女性の会社です。

木村恵子社長

「ものづくりの楽しさ・素晴らしさは、ミシンを踏まないとわからないのよ」と楽しそうにお話してくださいました。

Ｑ１：木村社長のこれまでの経歴について教えてください。
Ａ１：約20年前に、東京事務所に経理担当のパート社員として入社し、その後、正社員となり、営業・人事等についても担当するようになりました。社長には、令和元年６月に就任しました。

Ｑ２：女性社員が多いことで工夫していること等ありますか。
Ａ２：子育て中でも働きやすい環境であることを目指しています。
現在、育児休暇を経て働いている社員もいますし、「女性でも働きやすい職場だと聞いて」と面接に来てくださる方もいます。
私自身も子育てを経験していますし、同性として困ったこと等がないか、社員からヒアリングを行っています。
業務に関しても、例えば、仕上がった衣類の発送作業は力仕事になるのですが、女性でも楽に行えるように機械を導入する等、工夫しています。
また、福利厚生として実施している社内イベントにはご家族も参加していただいています。

Ｑ３：工場を見学させていただきましたが、皆さんの縫製技術の高さに大変驚きました。
Ａ３：初心者でも作業がしやすく効率も上がるよう治具、工具を工夫しています。
また、多能工という一人で複数の作業をこなせる作業者を育てたいと思っています。多能工が多くなれば、例えば、お子さんの関係で急に休暇が必要になった等、誰かが不在となった場合でも残りの作業者で従来通りの作業を行えます。このようにすることで、休暇が取りやすくなれば、より長く働いてもらえると思っています。
ミシンの技術はベテランから、若い世代へと受け継がれています。創業当時からの社員も現役で頑張っており、これからも若い方を大切に育てて行きたいと思っています。

完成した作業服等

作業服の襟部分のステッチ縫製の状況
（「パターンホーマ」という治具を使用することで効率よく作業が可能）

縫製作業の様子

発送作業時の計量・梱包用機械
（ローラーの上を移動させることで楽に作業が可能）

独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構【エルモ】では、在日米軍基地で勤務する従業員の募集を行っています。

興味のある方は、エルモホームページをご覧いただくか、下記の支部にお問い合わせください。

※また、求人情報提供メールサービスに登録すると、希望する求人情報がホームページに掲載される都度、お知らせメールが送信されますので御利用下さい。

https://WWW.lmo.go.jp　LMO　検索

求人情報

※求人情報提供
メールサービス

【窓口応募受付・お問い合わせ先】

エルモ三沢支部管理課管理係
住　　所：青森県三沢市平畑１－１－２５
電　　話：０１７６－５３－４１６５
担当施設：三沢飛行場、八戸貯油施設、車力通信所

編集後記

表紙の写真は、９月27日に青森県八戸港に寄港した砕氷艦「しらせ」です。
海上自衛隊は、砕氷艦「しらせ」により南極地域観測協力を実施しています。
第62次観測隊は、11月20日、「しらせ」に乗船し、南極に向け日本を出港しました。
この広報紙が発行される頃には、本物のペンギン達と会っているかもしれませんね。

発行元：防衛省東北防衛局広報委員会
（住所：宮城県仙台市宮城野区五輪1-3-15 電話：022-297-8209 ホームページ：http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/）